

能勢の自然エネルギー  
ワークショップ  
～地域で考え地域でつくる～  
第一回のまとめ

# 概要

## ■開催概要

項目	内容
名称	能勢の自然エネルギーワークショップ～地域で考え地域でつくる～
日時	2022年9月25日(日) 10:30-12:30
場所	浄るリシアター小ホール(大阪府豊能郡能勢町宿野30)
参加	30名(欠席者4名)
内容	(1) 自然エネルギーに関する能勢町の取り組みの説明 (2) 自然エネルギー促進のための計画作りについて (3) ゲスト講師によるミニ講演 (一橋大学大学院経済学研究科准教授山下英俊様) (4) ワークショップ

## ■当日の様子



## ■ワークショップの詳細

項目	内容
自己紹介(10分)	<ul style="list-style-type: none"><li>自己紹介カードを使って各自で自己紹介を行う。</li></ul>
ワーク「目指したい能勢の2050年の姿について考えよう！」(30分)	<ul style="list-style-type: none"><li>エネルギーともう一分野でテーマ設定を行う。</li><li>参加者は関心のあるテーマのテーブルにご着席する。</li><li>参加者は「エネルギーと〇〇」をテーマに2050年どのような姿を目指したいか考え、ポストイットに記載する。</li><li>余裕がある場合は、その将来像を実現するにあたっての課題をポストイットに記載する。</li></ul>
ワーク「今日の気づきを共有」(10分)	<ul style="list-style-type: none"><li>A4用紙に今日のワークショップで得られた気づきや参考になったことなどを記載する。</li><li>各自20秒程度でその内容を全体に発表する。</li></ul>

# 質疑応答

当日、本事業の説明と講師による講演の内容について、参加者から質疑応答を行いました。その内容を記載します。

質問	回答
<p>電力供給の目的が重要だと考えます。安定した供給ができる電源を導入することが大切だと思います。</p>	<p>再生可能エネルギーの導入について、ドイツでは40%、デンマークでは60%が導入されているが停電が発生しているわけではありません。電力の余剰を蓄電池や水素などにためて、電力が不足する時間帯に使う運用も考えられます。（講師）</p>
<p>再生可能エネルギーの導入にはコストがかかるのではないのでしょうか。また貯蔵技術はどのようになっているのでしょうか。</p>	<p>ヨーロッパでは化石燃料に依存していた結果、ウクライナ危機などの影響を受けました。地域外に依存していたからのリスクとも考えられます。北欧などではお湯をためて、供給するという方法もあります。設備の最適配置が大切であると考えます。（講師）</p>
<p>太陽光を導入する際には廃棄するためのコストも勘案する必要があります。</p>	<p>国の制度で、廃棄費用の積み立てを行うものがあります。ゾーニングを行っていることの意義として、能勢町の内では廃棄の扱いをルールとして導入することも考えられると思います。（講師）</p> <p>廃棄積み立てについては、初期費用の5%を積み立てにする制度があるため、不法廃棄を防止する仕組みがすでにあります。（主催者）</p>

# ワークショップで出た意見



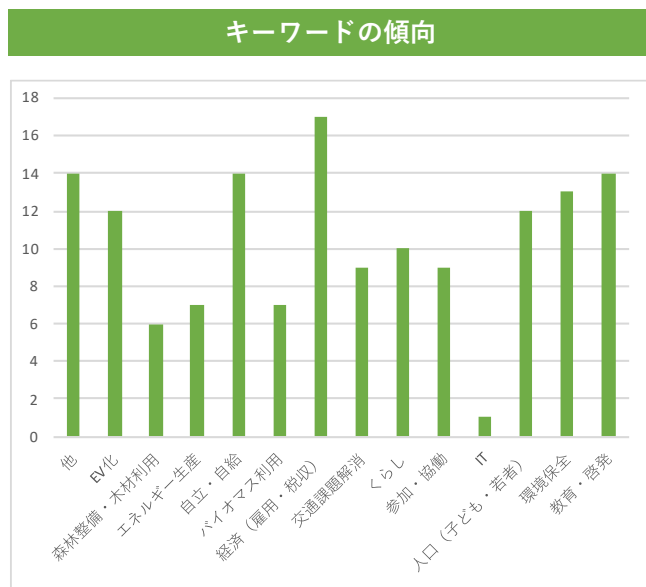
## テーマ

- エネルギーと農業・食
- エネルギーと自然環境
- エネルギーと教育
- エネルギーと交通
- エネルギーとまちづくり
- エネルギーと〇〇 (フリーテーマ)



# 意見の傾向について

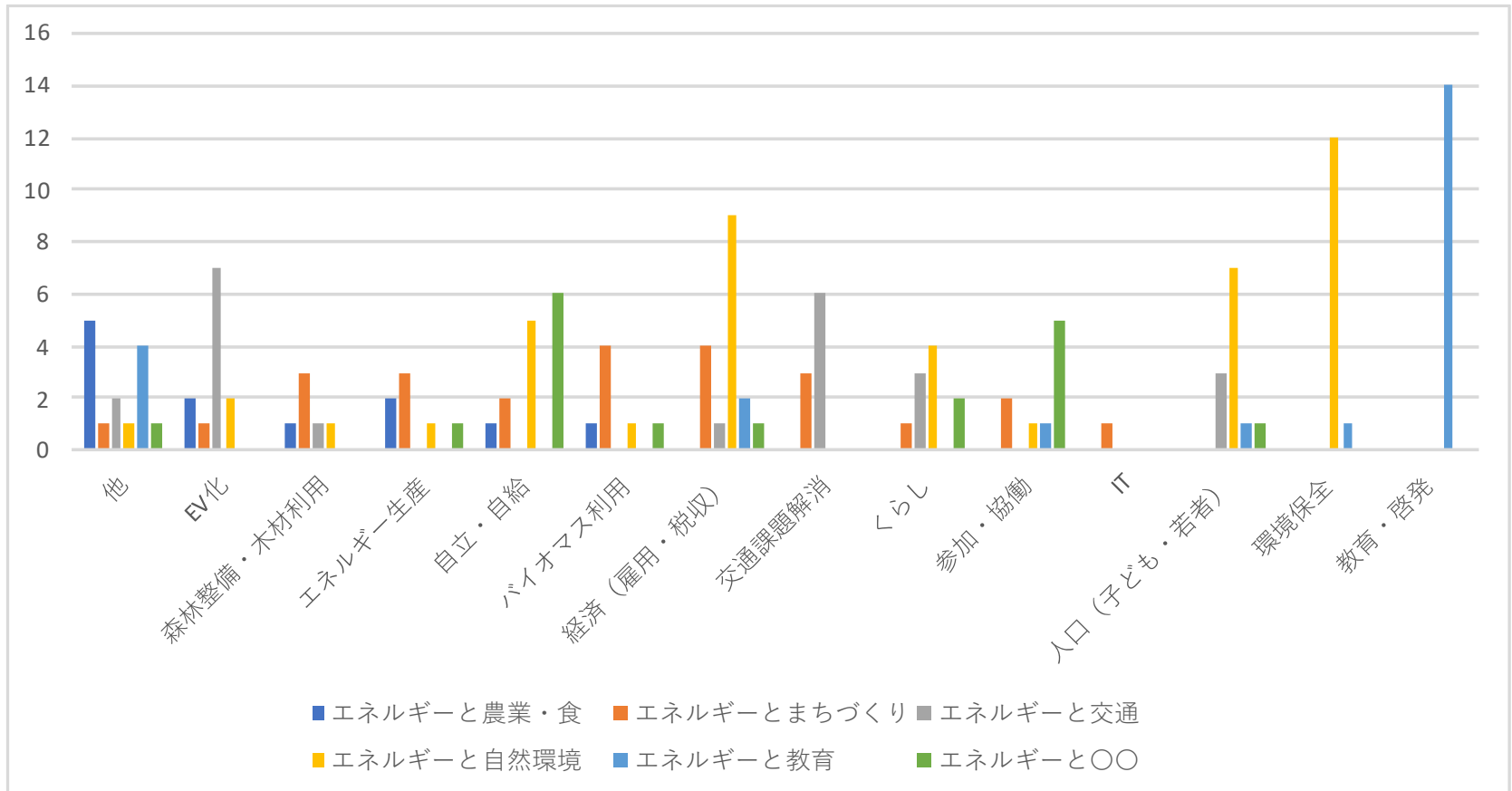
- ワークショップで出された意見について、キーワードごとにその傾向をまとめました。
- 重複するものや類似した意見が多く抽出されるためトピックスごとの偏りが大きいですが、大まかに議論の内容を掴めるように整理しています。
- そのなかでもエネルギー分野と関連の強い意見を一例として示します。



キーワード	主な意見 (一部抜粋)
EV化	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 農機具の電動化 (エネルギー)</li> <li>• 移動手段の多様性、電気自動車や他のエネルギーの移動手段で便利に</li> <li>• 電動補助自転車で通学らくらく</li> </ul>
林業・森林整備・木材利用	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 山 (木) の使用。</li> <li>• 山の仕事、農の仕事が大切にされている (就労者が多い)</li> </ul>
エネルギー生産	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 余剰電力を町外で売ること農家の収入も増</li> <li>• 小水力発電もできないか?</li> <li>• 全ての屋根に太陽光パネル</li> </ul>
自立・自給	<ul style="list-style-type: none"> <li>• エネルギーも食べ物も自給自足</li> <li>• 電力だけにたよらない。薪、日光、水力。直接エネルギーを利用</li> </ul>
バイオマス利用	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 山林整備としてもバイオマス発電を実現する</li> <li>• のせの木材熱利用</li> </ul>
経済・雇用・税金	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 働ける (収入原) 場所を増やす</li> <li>• 再エネの維持管理の仕事</li> <li>• エコロジーと産業振興を両立するまち</li> </ul>
参加・協働	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 太陽光発電導入しにく人が投資できる仕組みが欲しい</li> </ul>
暮らし	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 住宅事情を良く</li> <li>• 都市の人が住みたいと思うような町</li> </ul>
子ども・若者・人口	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 安全で安心できる住環境。そして子どもがたくさん</li> </ul>
環境保全	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 環境保全と再エネが両立する技術開発のプラットフォームになる町</li> <li>• 動植物が豊か。多様性。</li> </ul>
教育・啓発	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 自然エネルギーにふれ合う場を作る</li> </ul>

# グループごとのキーワードの傾向

- グループごとに意見を確認すると、当然グループ内ではテーマとなっている分野のキーワードが多くなりますが、グループを横断して出たキーワードの傾向としては、**税收や雇用の増加、若者の増加**といった社会環境の改善、**農業やくらしでの自給自足**といったテーマが多く挙げられています。
- エネルギーに直接関連するものとしては、**EV化の推進やバイオマスの利用**といったキーワードも目立ちます。



# 今回のワークショップで得られた気づき (参加者の発表から)

**のせのみらい**

他のまちにもうちやましがあがる。  
心配 → チャレンジ  
深刻

**交通**  
車も 農機具も 電化 馬力  
グリーン・インフラ モビリティ  
学校を東に 自然と山あいた  
お米の産額はあがる...

**農・食**  
馬力 農 食とエネルギーのつながりがあがる  
気候変動による影響

**暮らし**  
おしでも止めた  
お金の観点から意見をだしてあげる

**お金** (＄) 両立  
税金  
格差がなくなると...  
電気に頼りすぎない生活をしてみよう

**里山の活用**  
1歩ふみ出し 行動に。 活用する方法を知る  
身近なところから。

**まちづくり**  
ピンチはチャンスに  
かえてきました!!  
台風の倒壊 → まちづくり  
→ コミュニティが  
うまれた

**人とまちのつばり**  
みんなにこの様な  
場に参加してもらって  
喜ばれました。

**教育**  
知識を  
だしあえば  
もっとよくなる。  
小学生の意見で  
まちがかわる

**自然環境**  
みんな自然とのこしてました!!  
常に自分  
町と住民と協力  
対話ができる

**若者**  
変化をきょうに  
チャレンジ  
お米の産額はあがる...  
もっと便利で  
こまごましてあげる  
30年後  
世代において考えはちがうが  
知覚しておいた

**教育**  
町と住民と協力  
↑  
どのぐらい反映がある?  
自分は何ができる?

**の世の将来**  
の世の可能性

**エネルギーと助け合い**  
助け合い

みんなの世のことを  
しっかり考えている

# 今後について

- 第一回のワークショップを受けて、エネルギーを通じてめざす全体像を整理し、第二回のワークショップにつなげたいと考えています。
- 第二回のワークショップでは、よりゾーニング事業にトピックを絞り、太陽光発電と風力発電をテーマに皆さまから意見を聞き議論してゆきたいと考えております。